

連載 : ニュース Q 3

(ニュースQ3)ピコ太郎の「PPAP」全米で話題、なぜ?

2016年11月2日05時00分



ピコ太郎って

ピコ太郎って
と、米ビルボードのシングルチャート（10月18日発表）で77位になった。女性3人組「BABYMETAL（ベビーメタル）」が今春、アルバムチャートで39位に入ったが、今回は一番花形のシングルチャート。日本人では1990年に松田聖子が米歌手とのデュエットで54位に入って以来26年ぶりになる。

ユーチューブでの再生回数はすでに7千万回超。CDは出していないが、先月から有料配信も始めた。Tシャツなどのグッズ販売もスタート。12月にはアルバム発売も決まった。無料配信がお金もうけに結びつき始めている。

■ジャスティン発信

「ミラクルが2万回起こった感じ」。先月末、日本外国特派員協会での会見でピコ太郎自身もおどけた。自称・千葉出身のシンガー・ソングライター。青森出身の芸人・古坂大魔王がプロデュースしていると主張するが、本人がピコ太郎であることは誰が見ても分かる。

なぜこんなに人気が出たのか。「恩人」のひとりが、ツイッターで8千万人のフォロワーを持つ米国で人気の歌手ジャスティン・ビーバーだ。彼が「一番大好きなビデオだ」と紹介する

ヒョウ柄のマフラーを巻いたパンチパーマの日本人のおじさんが歌い踊る1分8秒の動画が米国で話題だ。おじさんの名は「ピコ太郎」。何が起きているのか。

■米ビルボード77位

サングラスにちょびひげ。こわもての中年男性がネイティブ風に気取って口ずさむ歌詞は「ペン」「アップル」「パイナップル」のほぼ3語のみ。ゲーム音楽のようなメロディーに合わせて軽やかに小さなステップを踏む。

動画「PPAP ペンパイナップルアップルペン」が8月にユーチューブで公開さ

と、またたくまに再生回数が伸びた。ピコ太郎のものまねをユーチューブで公開する若者たちも世界中に現れた。

東京・秋葉原で米国人観光客に何が良いのか聞いてみた。中学生のサラ・ネルソンさん(14)は自らピコ太郎をまねた動画をアップした。「ジャスティンが発信した流行に乗れて良い気分。日本はピコ太郎みたいな髪形の人でいっぱいだと思ってた」。会社員のアダム・アンダーソンさん(30)は「テレビが大統領選一色で、飽きていた。ゲーム音楽もやくざキャラも日本文化そのもので新鮮だった」という。

■売れる→受けるへ

米国のポピュラー音楽を研究する慶応大の大和田俊之教授は「中毒性のあるビートと強いキャラクター性が、いま米国で売れるための必須条件。ピコ太郎は見事に兼ね備えている」と分析する。

ビルボードがランキングの出し方を2013年に変えたことも追い風となった。かつてはCDの売り上げやラジオで流れた回数などから集計していたが、ユーチューブや有料の聞き放題サービスでの再生回数も評価の指標に加えたからだ。外国人の素人にもチャンスが来たことになる。

音楽市場アナリストの臼井孝さんは、ピコ太郎は、お金を払わなくても楽曲を楽しめる時代の象徴だと見る。「『売れている』曲ではなく『受けている』曲が何かを探ろうとするビルボードだからこそ、ピコ太郎に光が当たった。実売数でカウントしている日本のオリコンチャート方式ではあり得なかった現象でしょう」(江戸川夏樹、田玉恵美)

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.